

論文概要の和文様式

雑誌におけるタイトル:

エコチル調査追加調査『黄砂と子どもの健康調査』

和文タイトル:

エコチル調査追加調査『黄砂と子どもの健康調査』

ユニットセンター(UC)等名: 京都UC

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: BabLab紀要

年: 2018 月: 11 巻: 頁: 67-68

筆頭著者名: 金谷久美子

所属UC名: 京都UC

目的:

『黄砂と子どもの健康調査』では、黄砂やPM2.5等の大気汚染について以下を調べている。

1. 健康な人にもアレルギー症状に影響が出るの？
2. もしアレルギー症状が悪化しているなら、どんな方で影響が出やすいの？
3. 簡単にできる予防行動にどれくらいの効果があるの？等

方法:

エコチル調査では、全国で共通した調査を実施するほかに、環境省の許可を得て地域独自の調査を追加することができる。『黄砂と子どもの健康調査』は、京都・富山・鳥取の3つの地域が合同で実施している追加調査である。これまでに得られた結果を紹介する。

結果:

妊婦では、何らかのアレルギー様症状のある割合が黄砂飛来日に有意に増加していた。花粉非飛散日には黄砂の影響はほとんど観察されなかったが、花粉飛散日にスギ花粉抗体陽性の妊婦においてのみ黄砂が花粉の影響を有意に増強しており、動物で観察された黄砂の「アジュバント」の様な作用に合致する結果であった。また、屋外にいた時間の長かった方で影響が強ク観察され、アレルギー症状に悩む方には、黄砂日には不要な外出を避けることで実際に症状を低減できる可能性が示された。

考察:(研究の限界を含める)

妊婦において、現実にあろうる濃度で、実際に黄砂がアジュバント作用に矛盾しない影響を与えていることを示した。研究の限界の1つ目として、アレルギー症状は自己申告であり医師に確認されたものではないこと、2つ目として濃度の高い黄砂日にはテレビ等からの情報により症状報告にバイアスが入っている可能性があること、3つ目として今回の調査は妊婦のみを対象としており、男性や妊娠していない女性にもあてはまるとは限らないことがあげられる。ただし、黄砂の影響は非常に低い(自覚できない)濃度から濃度依存性に観察されており、2つ目の限界については克服できていると考える。

結論:

妊婦では、何らかのアレルギー様症状のある割合が黄砂飛来日に有意に増加していた。